

えひめ

2006

No.21

健康だより



伊予灘サービスエリアより望む夕日

統計からみるがんの動向..... 1～5

わたしの街から..... 6
～伊予市～



財団
法人

愛媛県総合保健協会



統計からみる がんの動向

～平成16年人口動態統計より～

財団法人愛媛県総合保健協会 参与 川上 壽昭

1. 全国のがん死亡数及び死亡率

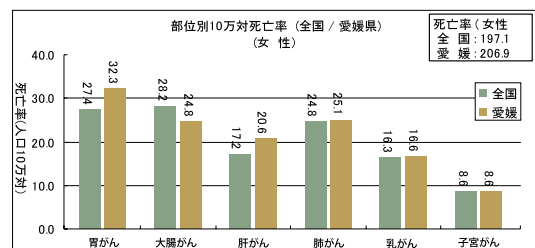
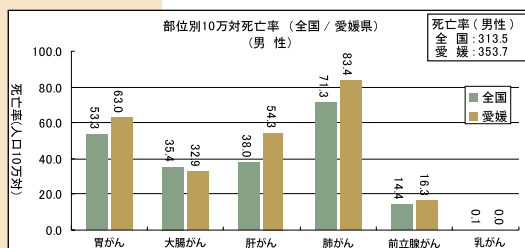
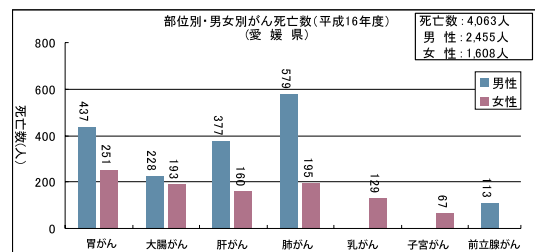
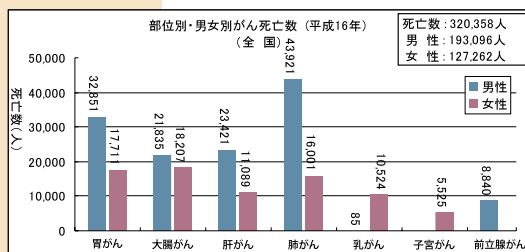
2004年(平成16年)の日本の死亡者は1,028,602人。そのうち「がん」による死亡者は320,358人(男性193,096人、女性127,262人)で、1981年以来心臓病や脳卒中を抜いて死亡原因の第1位を続けています。人口10万人に対する「がん」の死亡率は253.9で前年に比べ8.5増え、男性は313.5で10.2、女性は197.1で7.0増えてきております。

部位別の死亡数では、肺がんが59,922人(10万対死亡率47.5)でトップを占め、2位が胃がん50,562人(10万対死亡率40.1)、そして第3位が大腸がん40,042人(10万対死亡率31.7)となっています。男女別死亡数では、男性の第1位は肺がん43,921人(10万対死亡率71.3)、次いで胃がん32,851人(10万対死亡率53.3)、肝がん23,421人(10万対死亡率38.0)の順となっています。一方、女性のトップは大腸がん18,207人(10万対死亡率28.2)、第2位が胃がん17,711人(10万対死亡率27.4)、次いで肺がん16,001人(10万対死亡率24.8)となっています。

女性の敵である乳がんと子宮がんは、それぞれ10,524人(10万対死亡率16.3)と5,525人(10万対死亡率8.6)となっています。

2. 愛媛県のがん死亡数及び死亡率

一方、平成16年の愛媛県における「がん」による死亡数は4,063人(男性2,455人、女性1,608人)あり、部位別では肺がんが774人(10万対死亡率52.6)でトップを占め、次いで胃がんが688人(10万対死亡率46.8)で第2位、そして肝がんが537人(10万対死亡率36.5)で第3位となっています。女性は胃がんが251人(10万対死亡率32.3)で第1位を占め、次いで肺がんの195人(10万対死亡率25.1)、大腸がんの193人(10万対死亡率24.8)と続き、乳がんは129人(10万対死亡率16.6)、子宮がんは67人(10万対死亡率8.6)の方が犠牲となっています。



部位別がん死亡者数・死亡率 (平成16年度 全国・愛媛県)

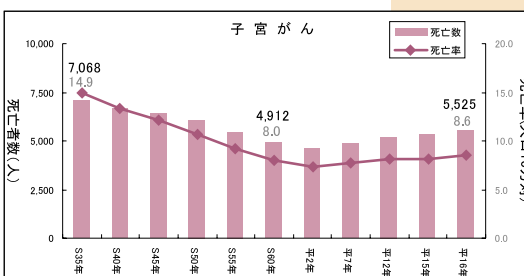
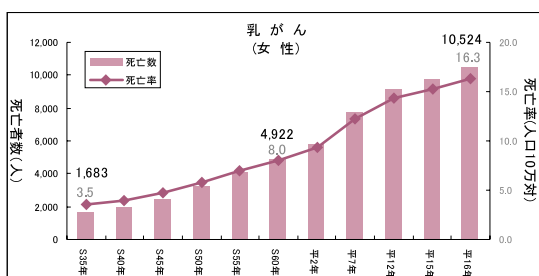
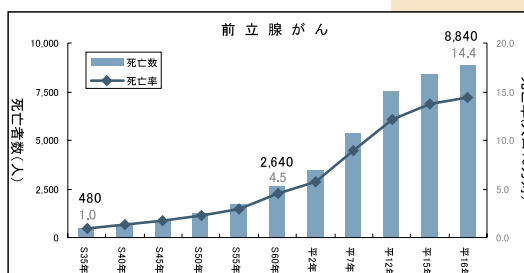
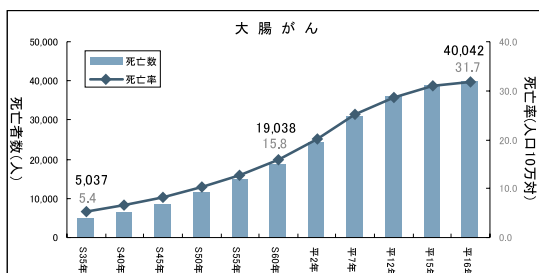
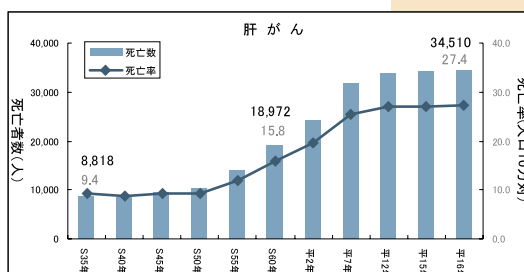
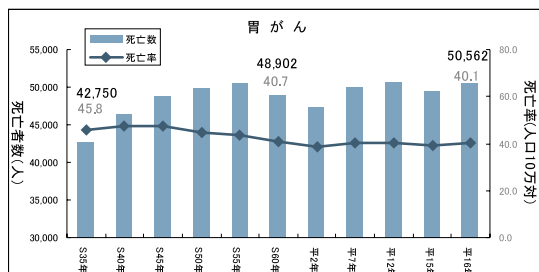
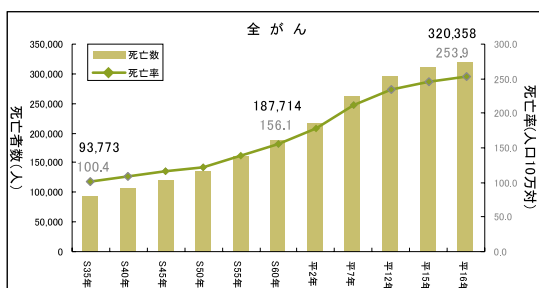
厚生労働省人口動態統計より

3. 主ながんによる死亡数・死亡率(人口10万対)の年次推移

昭和35年から平成16年までの約50年間における「がん」による死亡数は増加の一途にあり、昭和35年の死亡数が93,773人であったものが、平成16年には320,358人と実に3.4倍もの犠牲者が出ています。(人口10万対死亡率100.4→253.9)

部位別では肺がんによる死亡数の増加が著しく、昭和35年の死亡者数が5,171人であったものが平成16年には59,922人(10万対死亡率5.5→47.5)と11.6倍も伸びてきています。また、肝がん(8,818人→34,510人)、大腸がん(5,037人→40,042人)、前立腺がん(480人→8,840人)、乳がん(1,683人→10,524人)の死亡数は著しい増加傾向にある中で、胃がんと子宮がんについては横ばい傾向となってきました。

これらの統計から、がんで亡くなる人はおよそ1分40秒に一人の割合となっています。また、働き盛りの壮年層では、5人に2人と大変高率です。高齢化に伴い罹患数・死亡者数は増えることはあっても減ることはなく、死亡率を減少させる対策が求められてきています。

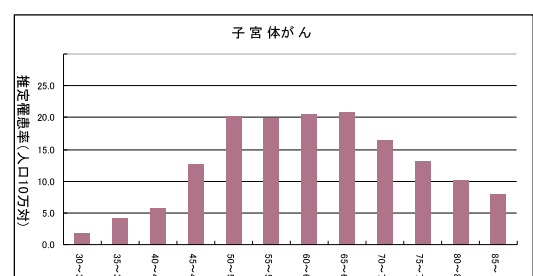
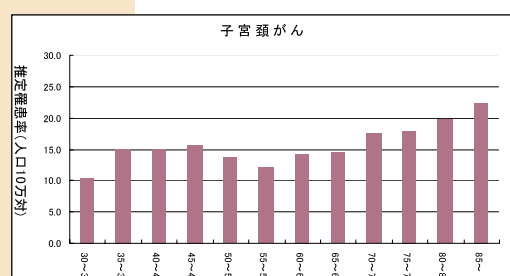
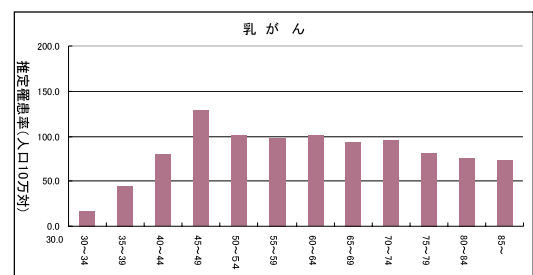
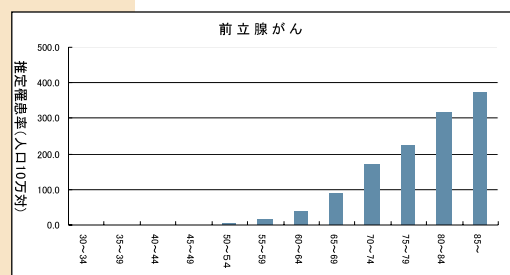
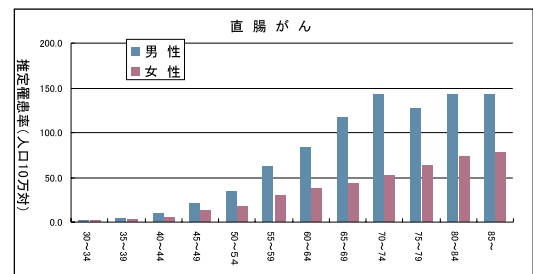
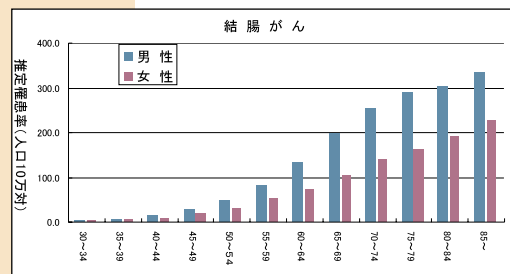
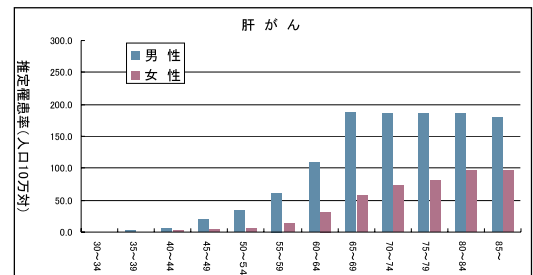
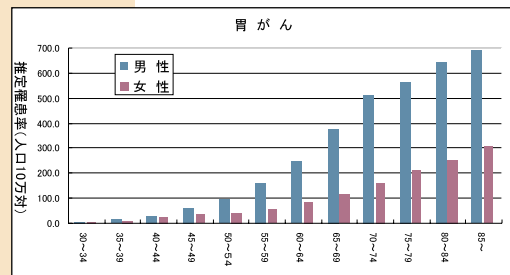
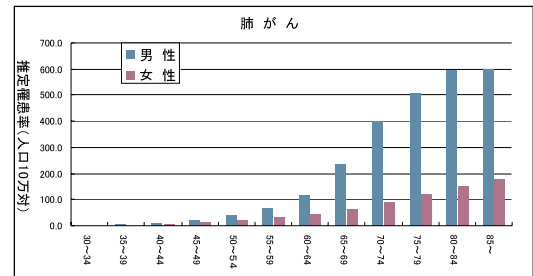
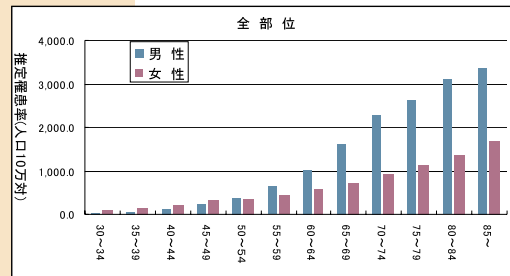


主ながんによる死亡数・死亡率(人口10万対)の年次推移

厚生労働省人口動態統計より

4. 男女別・年齢階級別がん推計罹患率及び死亡率(人口10万対)

「地域がん登録の精度向上と活用に関する研究」平成15年度報告書による平成11年全国がん年齢階級別推計罹患率(罹患率:一定期間内に新たに発生した患者の単位人口に対する割合)において、ほとんどの「がん疾患」が年齢の高齢化とともに増加していく中で、乳がんは45歳～49才(人口10万対罹患率128.7)が罹患率はピーク、また、子宮頸がんについては年齢階級に関係なく若年層から高齢層まで平均した罹患率であることが特徴となっています。

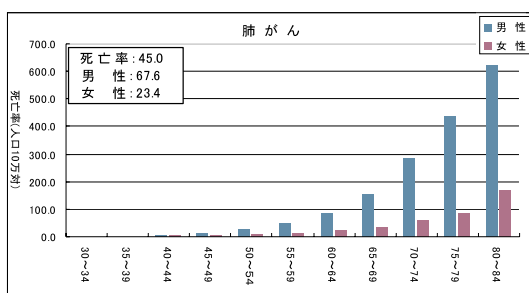


年齢階級別推計罹患率(人口10万対) 資料「地域がん登録の精度向上と活用に関する研究」平成15年度報告

5. 主ながんの死亡動向

(1) 肺がん

全年齢層で死亡率は増加傾向にあります。特に70歳以上の高齢者層において、その傾向が顕著であります。人口の高齢化が進んでいること、喫煙率の高かった時代の影響等により死亡者数、死亡率ともこの50年間で急激に増加してきています。



主ながんによる部位別・年齢構成別死亡率(人口10万対)
厚生労働省人口動態統計より(平成15年度)

(2) 胃がん

大部分の年齢層で死亡率は減少傾向にありますが、人口の高齢化の影響を受けて、全体の死亡者数は昭和35年より約8,000人増えています。人口10万人に対する死亡率は横ばいとなっています。

(3) 大腸がん

大腸がんは非常なペースで増えつづけています。2004年(平成16年)に亡くなった人は40,042人で、肺がん・胃がんに次いで第3位となっています。しかし、女性は18,207人亡くなりがん死亡原因の第1位となっています。

増加の原因としては、食生活の欧米化、つまり動物性脂肪摂取量の増加と食物繊維の減少があげられています。

(4) 肝がん

男性、女性とも60代で急増しますが、特に男性はその傾向が強く、男性の死亡者数は女性の2倍以上になっています。

肝がんは、日本人をはじめ東洋人に多いといわれています。平成15年の肝がんによる死亡者は、全がん死の11.0%を占め第4位となっています。

(5) 前立腺がん

平成16年に亡くなった人は8,840人、がんによる男性死亡者の約4.5%になります。しかし、約50年前にくらべて死亡者数は18.4倍に増え、高齢者層に集中しています。

原因と予防法は、まだはっきりわかっていませんが、食事の欧米化と高齢化が一因といわれています。

(6) 乳がん

女性では、乳がんの罹患率が胃がんを抜いて第1位となっています。30才以降の比較的若年層から多く罹患することが特徴です。

死亡率は、ほとんどの年齢層で増加傾向にあります。平成16年の死亡者数は10,524人と約50年前にくらべて6.25倍に増えています。また、死亡年齢のピークが50才代という比較的若い時期にあることも乳がんの特徴です。

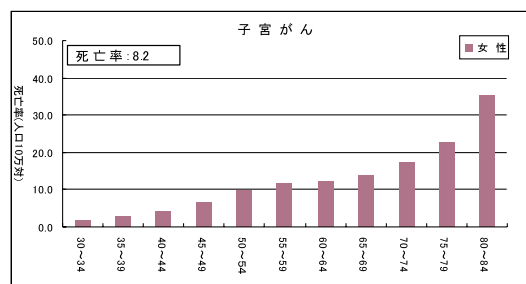
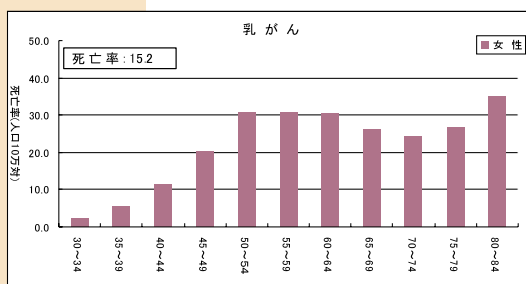
乳がんは、ホルモンバランスの乱れが原因といわれていますが、高危険因子としては、1)家族歴・・・母・姉妹が乳がんにかかったことがある人、2)既往歴・・・本人が乳がん、その他の乳腺疾患にかかったことがある人、3)高年初産の人、4)未経産の人、5)過剰栄養等が考えられています。

(7) 子宮がん

子宮がんの死亡者数は、約50年前には年間約7,000人もありましたが、検診の普及とがん知識の向上により年々減少し平成2年には4,600人にまで減りました。しかし、その後徐々に増えはじめ平成16年の死亡者数は5,525人で少しずつ増えてきています。

年齢階級別の死亡率では、子宮頸がんは50代に一度ピークがあり、70代からまた急増します。

原因については、性生活や出産と関連があり、ヒトパピローマウイルスの感染が発がんに関与しているのではないかと考えられています。



主ながんによる部位別・年齢構成別死亡率(人口10万対)

厚生労働省人口動態統計より(平成15年度)

(平成17年度がん征圧スローガン)

「だいじょうぶ。」
思い込まずに
がん検診

初期のがんは自覚症状がないことも多く、気付いた時にはかなり進行している場合もあります。昨年度のがん征圧スローガンにもあるように、自分だけは「だいじょうぶ。」と思い込まずに、積極的にがん検診を受けましょう。



わたしの街から

伊予市役所 市民福祉部
健康増進課
保健師 福積 秀子さん



伊予市の紹介

伊予市は、愛媛県のほぼ中央、道後平野の西南部から四国山地にわたり、西北部は瀬戸内海に面し、松山市から10kmのところに位置しています。市の中央には、国道56号線と松山自動車道が走り、伊予市内のみならず各方面へのアクセスとして利用されています。

平成17年4月1日に旧伊予市・旧中山町・旧双海町の1市2町が合併し、「自立・共生・協力・交流」をキーワードにして、人口40,565人(平成18年4月末現在)、総面積194.47km²の新しい伊予市が誕生しました。新市の将来像である「ひと・まち・自然が出会う郷土」の実現を目指しています。

自然豊かな四季を通じて、春には双海地区で菜の花まつり、夏には伊予地区でビーチバレーや住吉まつり、秋には中山地区で栗まつりなどが開催されています。それぞれのイベントに参加して伊予市の自然を満喫してください。



▲菜の花ロード
春、伊予灘沿いのR378は菜の花で黄色く染まります

伊予市健康増進課の取り組み

すべての市民が元気で幸せに生活できる社会「みんなでつくる健康のまち」の実現に向け、市民の幸せへの願い・健康の願いの集結が大きな柱となった健康づくり計画を作成しました。



- ①食事: 心と身体においしい食事
- ②運動: 生活の中に運動を取り入れよう
- ③心: 毎日笑顔でまあるい心
- ④歯: 自分の歯を大切に
～8020運動を実践しよう～
- ⑤禁煙: たばこは吸わない、吸わせない
- ⑥アルコール: 飲むなら楽しく
- ⑦健康チェック: 自分の健康状態を知っておこう

という7つの大きな目標に“個人でできる心がけ”“組織・行政・地域ぐるみでの取り組み”と、それぞれの実践目標を掲げ、達成に向けて活動しています。



▲伊予市保健センター

各地区の特性に応じた事業に取り組んでいます

伊予地区では、健診が始まる前に健康教室を行い、健診を受ける必要性などについて呼びかけをしています。今年は「これからの健康づくり～自己管理の方法～」をテーマに講演会を開催しました。また、平成9年度から肝疾患対策協議会のもと、肝疾患対策に取り組んできました。今までの検診結果から、C型肝炎ウイルスは、若年層にはほとんどみられないという結果でした。市民の方々に幅広く受診してもらうため、今年度も引き続き無料で肝炎検診を実施します。

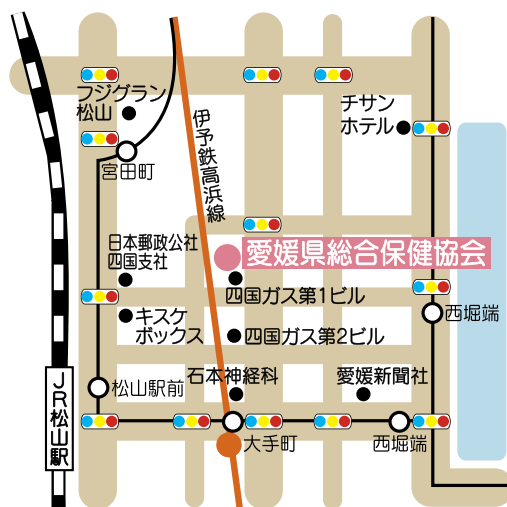
中山地区では、高血圧の予防に重点をおいて、各集会所を回り高血圧予防の食事や運動等についての教室を実施しています。継続した教室の開催が、高血圧予防についての意識を高めています。

双海地区では、10年前よりコレステロールについて愛媛大学医学部と健診結果の分析・研究をしています。年々、自分のコレステロールの値に関心を持つ人が増え、高コレステロールになる方の割合も減ってきています。



保健センターでは引き続き、各種健診・成人歯科検診・肝炎検診に取り組んでいきます

健診結果をこれからの健康づくりに生かしていくために、生活習慣の改善などを一緒に考え・実践・継続できるように心がけて保健指導を行っています。また、個別栄養相談(予約制)は、希望する方が多く新たに日を設けることもあります。今年から65歳以上の方には基本健康診査に合わせて生活機能評価が実施され、介護予防の取り組みも強化していくなど、保健センターでは市民の健康づくり事業の推進に努めていきます。



総務部	TEL(089)987-8200 FAX(089)987-8250
事業部	(事業推進課) TEL(089)987-8203 FAX(089)987-8253 (放射線課・看護課・医学検査課) TEL(089)987-8205 FAX(089)987-8255 (情報管理課) TEL(089)987-8220 FAX(089)987-8254
保健部	(ドック健診) TEL(089)987-8201 FAX(089)987-8251 (一般診療) TEL(089)987-8202
環境部	TEL(089)987-8206 FAX(089)987-8256
病理細胞診センター	TEL(089)987-8207 FAX(089)913-7132
東予支所	〒792-0025 新居浜市一宮町1丁目14番18号 TEL(0897)32-5428 FAX(0897)34-3092
南予支所	〒798-0033 宇和島市鶴島町3番1号 TEL(0895)22-3128 FAX(0895)23-3499


財団法人 愛媛県総合保健協会
 〒790-0814 愛媛県松山市味酒町1丁目10番地5

[個人情報の取り扱いについて]

本誌を送付させて頂いている皆様のお名前、団体名、事業所名、住所は、当協会の個人情報保護方針に基づき、厳重な管理の下に運用しております。個人情報の訂正および削除を希望される場合には、お手数ですが事業推進課(089-987-8203)までご連絡ください。